２０２５年度　町田市里山環境活用保全計画推進委員会　議事要旨

【会議日時及び場所】
日時　２０２６年2月１７日（火）１０時～１１時５５分
場所　町田市庁舎　４階　会議室４－１（リモートによる実施）

（出席者）（敬称略）
■委員
図司直也（委員長）、寺田徹（副委員長）、柏木千春、滝口進、木目田典子、新倉敏和
■事務局
経済観光部　粕川北部・農政担当部長、
経済観光部農業振興課　林田課長、牛腸担当課長、秋山里山担当係長、小島主任、天野主事
■傍聴者
０人

【資料】
・次第
・資料１－１　拠点施設整備の進捗状況
・資料１－２　小山田エリアにおける里山環境再生・活用拠点施設のあり方に関する基本構想（概要版）
・資料２－１　重点事業進捗状況確認シート
・資料２－２　２０２５推進委員会資料_重点事業
・資料３－１　リーディングプロジェクト進捗状況確認シート
・資料３－２　２０２５推進委員会資料_リーディングプロジェクト
・資料４　　里山環境活用保全計画　後期実行計画の策定について

【議事要旨】
事務局から
２０２５年度の事業の進捗について
・　小山田エリアにおける拠点施設整備の進捗状況について
・　重点事業の進捗について
・　リーディングプロジェクトの進捗について
後期実行計画について・２０２５年度町田市里山環境活用保全計画推進委員会　委員総括

１　開会挨拶
・　経済観光部北部・農政担当部長からあいさつ

２　議事
１．小山田エリアにおける拠点施設整備の進捗状況について
事務局から資料１－１、１－２を基に説明

・　委員	「小山田エリアにおける里山環境再生・活用拠点施設のあり方に関する基本構想」に掲げる機能別の基本方針１～４は拠点施設の大方針として出したものだが、恐らくサウンディング調査を受けた事業者から見ると、その方針がバラバラな取り組みをやるように見えてしまい、どういう形で答えられるかが具体的に想定しにくかったのではないか。そこでとりあえず「里山の資源量について教えてください」と回答し、町田市が調査をしたという流れなのかと思うが、やはりこの機能別の基本方針１～４を全て包含する大きなコンセプトがしっかりしていないといけない。どういう企業・どういう方を町田市が

	求めているのかがはっきりしていないように思う。 　空間活用の視点も考えるべきだという考察をされていたが、私もそのように思っている。いわゆる生態系サービスで言うと、必ずしも供給サービスや木材の活用だけではなく、あの里山の空間そのものをレクリエーション的に活用したり、企業研修の場や様々なレクリエーションの機会を提供したりして、都市に近い里山という特性を利用して企業にもっと参画していただくためのカーボンクレジットや生物多様性のオフセット、ネイチャーポジティブに向けた仕組みづくりが必要だと思う。 　生活環境の一環として景観やアメニティを整える必要もあるし、多種多様な里山のサービスを上手く支えるような施設が目指すべき姿だと思うが、その大きなビジョンが伝わりにくく、サウンディング調査もちょっと噛み合っていない気がした。
・委員	●●委員と同じく、大きなコンセプトが必要なのではないかという意見を持っている。 　里山環境の活用と保全を何のためにやろうとしているのかという、その目的が一緒にやる方々と共有できていないといけないと思っている。それがしっかり打ち出されて、事業者の皆様にも伝えることができれば、事業者側にとっても収益事業だけではなく、公益性のある事業だとどういう展開ができるのかという広がりも出てくると思う。関わっていただく方々に対して、何のためにこの事業をやろうとしているのかということをしっかりと伝えてほしいと思った。
・　委員長	両委員、特に●●委員からいただいた目的に関するご意見にかなり近い意見を私も感じている。 　近年の話でいくと、獣害等は町田市ではまだそこまで直近の課題にはなっていないと言いながらも、地元に生活されている方々と里山の距離感みたいなところ、里山に人が入ってある程度空間を管理する、開いていくようなことがかなり大事になることが、３箇所の資源量調査の調査結果を見比べるだけでもかなり見えてきたと思う。空間管理が地域の皆さんの暮らしにとっても大事だということが昨今のクマ騒動の中でもかなり認知が広がっていることは追い風だと思う。 　そういった調査は「小山田エリアにおける里山環境再生・活用拠点施設のあり方に関する基本構想」の中であまり意識されていなかったが、盛り込んだ形で目的設定を行い、手段に関しては●●委員のご指摘のように、色々な選択肢があることと可能性の高い、低いみたいなところもある程度示せると、事業者の方もコミットするやり方が見えてくるのではないかと思う。その位のレベル感まで内容を落とし込んでいくことが大事だと感じた。
・　委員	民間の事業者を集めていくという観点だと、もう少し具体的なものや参画するメリットを打ち出せるとよろしいのかなと感じた。先ほどカーボンクレジットという話があったが、カーボンクレジットでビジネスをやろうという方も聞く。こうするとカーボンクレジットが使えるといった話が掘り下げられると良いのではないか。

・　事務局	各委員からいただいたご意見について、ご指摘のとおりだと思う。 「小山田エリアにおける里山環境再生・活用拠点施設のあり方に関する基本構想」に掲げる機能別の基本方針１～４は、地元の方と話し合いながら出てきたものだが、なぜこの４つが出てきたのかということに目を向けていく必要があると思った。 この事業で収益をあげるというのは正直なかなか難しいところがある。公益的な視点から参画するメリットをブラッシュアップすることは必要だと感じている。その辺りについては引き続き色々な方の意見や、場合によってはコーディネートできるような方々の目線を入れてもよいかもしれないと考えている。 来年度については今までヒアリングさせていただいた企業や地元の方々と一緒になって、いくつか社会実験的なイベントをしていきたいと思っている。そういった検討も通じながら、事業のコンセプトや目的、参画するメリットをブラッシュアップする作業をしていきたい。
２．重点事業の進捗について 事務局から資料２－１、２－２を基に説明	
・委員	重点事業は、結構進捗が加速しているというか、新たなに関わってくださる方も引き込めているような印象を持った。竹林整備等は年々とノウハウが溜まってきている印象も受けており、例えばプログラムとして町田市、市内の事業者の方の研修などＣＳＲの一環で、来ていただけるような体制も整っているのではないかなとも感じた。個別の活動のみではなく横展開していくことで、この計画の中で関わってほしい方の入り口を作るということがもうできる段階にあるのではないかと感じた。成果を活かして何かプログラムを考えるというようなところに展開させていってもよいのではないか。
・委員	活用事業と情報発信の分野について、活用事業に関しては、これらの事業をどのように進化・拡大させていくのか、そろそろ具体的にイメージができるステージに入っているのではないかと思う。 情報発信に関しても、里山環境活用保全計画で「戦略的な」と書いてあるので、これは前回も申し上げたことではあるが、活用事業においても情報発信においても戦略的に事業の進化と拡大というものを意識してやっていただきたいと思う。具体的に誰に対して、何をどのように進めていくのが一番効果的で効率的なのかということを、いよいよ絞り込めるステージに入ったのかなと思う。バラバラとやるのではなく方向性を具体的に定めて進めていけたら良いのではないか。
・委員	ナラ枯れの調査について、特に小野路の方だと山を歩いている方のそばにある木、民地の山にも通行上すごく危険な木があるので、引き続き町田市の方でよく見て対策をしていただきたい。
・委員長	説明資料の達成状況に「△」がついていた、団体とのコミットメント、団体をどのように増やしていくのかということについて。 企業版ふるさと納税の話が出てきているが、これについてはかなり実績が伸びている

	し、持続的にあの制度そのものの存続を求める声が現場サイドからは出ていると聞いている。実際、里山保全みたいなメニューで利活用している他の自治体がどのくらいあるかということを、私も調べてみないといけないと思った。町田市では、里山に限らず企業版ふるさと納税みたいなものに対する反応はどのくらい出ているのかということ。その中での里山というものの位置づけは、先ほどの拠点整備の話にも関わってくると思うが、企業の皆さんへの訴求ポイントになってくると思う。企業の皆さんに関心を持っていただく一つの切り口としてかなり大事な要素だと思うので、分かる範囲で状況を聞かせていただきたい。
・事務局	前期の実行計画については、まずはできそうなことをやりながら考えようという方向性でやってきたが、取り組んだ結果分かってきたことや手応えもある。後ほどの議題となるが、里山環境活用保全計画についてはこれまでの４年間の実績も踏まえて後期実行計画の戦略を固めていく予定である。 小野路地域では竹林整備に関する取り組みが展開されており、町田市内に関わらず市外からも竹林の整備方法や、伐採後の活用などについて問い合わせをもらうことがある。相原地域や三輪地域の里山については、他地域の取り組みから横展開できるようにしてくことが必要だと思っている。 ナラ枯れについては、町田市が持ってる土地だけでもかなり必死にやっている状況なので、なかなか民間への支援までは手が回っていないが、緑や環境系の部署と情報共有しながら対応していきたい。 委員長からいただいた、団体の数がなかなか伸びないことについて、指標の基準が町田市所有の山林を管理する協定を締結した団体としたため、ハードルが高いといえる。イベントに参加される個人の方はこの１年でも増えてきたと感じるので、そういった方々を上手く団体として取り込むことで、活動が活発化していく事を期待したい。 企業版ふるさと納税の話について、町田市では企画政策課が本制度を所管しており、企業の皆様向けに宣伝を行っている。 今年度、昨年度の宣伝用パンフレットでは一番最初のページに町田市の里山についてご協力いただけませんかというフレーズがあり、その影響もあったのか昨年、一昨年と里山でご寄付をいただくことができた。数字的に寄付額は年々増額傾向にある。 先ほどの議論にあった公益的なメリットについても大事な話だと考えている。
３．リーディングプロジェクトの進捗について 事務局から資料３－１、３－２を基に説明	
・委員長	「多摩の森」活性化プロジェクトを活用したプログラムがいくつか展開されている。事業の建て付けとしても区部と多摩の地域を繋ぐような役割は非常に大きいなと思うが、仮に協議会がなかった時に町田市の中だけでこの手の交流連携事業をやろうとすると難しいかどうか、東京都の事業を実際使ってみて町田市としてどの様に受け止めているか聞かせていただきたい。

・事務局	２つの地域で行われた「多摩の森」活性化プロジェクトのイベントについて、私も当日のイベントの様子を見ていたが、第一印象としてイベントに対する区部からの参加者の期待度が違うと感じた。参加者の方からは、綺麗な森林の中に癒しを求めてきたというお話もいただいた。他にも期待以上に満足できたというお話もいただいたので、やはり森とか緑、里山を求めているというか、飢えている状態が市部の方々と比べて大きくあるのかもしれない。 区部の方々に来ていただいて里山で外貨を稼ぐみたいな考え方もあるし、参加者にはイベントを企画した団体の活動紹介もアナウンスしているので、参加者が里山の担い手になるという段階にまで発展していければよいと思う。
・委員長	私も研究をする上で、千葉の鴨川で行われている保全活動などに足を運ぶ経験もあるが、首都圏に住むある程度アクティブな方だと１～２時間位の場所なら行ってしまうような方が一定数いると実感したことがある。 地域の皆さんにとっては当たり前にあるので里山の価値みたいなものに気づきにくいところがあるが、そのような少し遠くに住む皆さんの力も借りつつ、地域の中で担い手をどうするのかという所に上手く絡めていく機会を作り、組み合わせていくことが大事だと思うし、東京都の事業としても意義深い。 取り組み状況についてはリーディングプロジェクトのエリアそれぞれの進捗があると思うが、良い動きを他の地域にも少し広げていくような対応もぜひお願いしたい。
４．後期実行計画について・２０２５年度町田市里山環境活用保全計画推進委員会　委員総括 後期実行計画について事務局から資料４を基に説明	
・委員	総括的なコメントになるが、里山環境活用保全計画の見直しに関してはまず皆さんご指摘のとおりで、この事業の目的をもう一度きちんと精査することがすごく大事だと思っている。施設あるいは里山全体に収益性を求めて営利な方向に走ってしまうと、恐らくそれを実現する主体となる存在が現れないので、基本的には里山は公益性をきちんと担保することが大切である。 例えばナラ枯れの問題などは里山の維持管理が上手くいかなかったことによってその公益性がどんどん損なわれてしまっているということなので、それはきちんと対応しないといけない。管理放棄、生物、景観、様々な意味で公益性が減っているので、それを高めていく必要があるが、前期実行計画の手段ではその取り組みの８割くらいが市民の皆さんのボランティア活動や交流の視点でなんとかしようというやり方だった。 後期実行計画ではそれ以外に事業者の方を含む方の関わり方をもっと増やして、事業者目線で見た時の環境経営・カーボンクレジット等の、社会に対する説明責任の一環として里山と里山の公益性にちゃんとコミットするような、市民交流のイメージから少し離れた、事業者を中心とした新しい主体との関わりを作っていくのがポイントだと思った。 そのため、そもそもの目的とその実現手段として新たに事業者の方から考えていくことが新しいフェーズには非常に大事な視点だと思っているので、皆さんとまたご議論できればと思う。

・委員	ほぼ●●委員と同じ意見だなと思って伺っていたが、計画策定から４年間、色々な試行錯誤をされてきてそこで培われた知見があると思う。これを活かしながら、目的と戦略、具体的に何をすべきなのかを一貫性を持ってかつ、シャープに作り上げる計画にしていけたらなと思っている。利用者目線でという話も●●委員がおっしゃられていたが、そういった目線も欠かさず、協力して良いものを仕上げていければと思う。
・委員	事例ではないが、先ほど重点事業「山林と農地の再生と活用」の実施者が偶然にも町田新産業創造センターに入居者する事業者であった。 事業の継続性という視点も含めてぜひ、事業者側とコミュニケーションを取っていただきたい。 ●●委員がおっしゃっていたこととすごく似ているが、事業者が協力するには２つ視点があると思う。１つは事業者にとっても社会的意義があるということ。もう１つが最低限ビジネスになること。大きく儲けようとは思わなくても最低限赤字にならずに、ビジネスとしては継続性が担保できること。里山はやはり社会的意義がすごくあると思うし、事業者側にもそういう事を考えてる方がいっぱいいらっしゃると思うので、そういった所を事業者側にアピールして取り組むことで少し前に進んでいかないかなと思っている。
・委員	このエリアは都市近郊においてとても貴重な里山だと思うので、このような具体的なプロジェクト等に携わらせていただいていることをとても光栄に思う。 非日常体験というものを求めて里山に来られる方が多いと思うので、都内の小学生をこちらに呼ぶ取り組み等の具体的な活動もあったので、とてもよいと思った。 里山の維持管理コストも増加しているところでもあるので、本当に非日常体験を求めている方々が誰なのかということを明確にして、その人たちに向けて情報発信していくと、もっと活動について周知がされるのではないか。町田市内はバスの運行環境がなかなか難しいので、そういった課題もフォローしながら活動に繋げて、より興味を持っていただけたらと思う。
・委員	今お話があった担い手の確保と支援という所について、我々が関わる方々の中にも山林の所有者がいらっしゃる。 今、世代交代が行われて山林所有者の中心層になっている方々の中には山林の木の伐採等について先代所有者から教わってない方もおり事業承継が上手くいっていない。そのため山林が手つかずのまま整備が止まってしまっている状況である。先ほどの話にもあった社会貢献のかたちで事業者や民間団体に参入してもらい、一緒に里山の活用・保全に付き合っていただけるような方々が増えていけばよい思うので、ぜひそこはお願いしたい。
・委員長	先ほどの担い手主体のところについて、市民と事業者、それぞれに対するアプローチ

	の話があった。市民やボランティアとして関わってくださる方々の話も含めて、いわゆる関係人口の議論手法として関わり方のステージを階段状に表現するような図がよく示されるが、町田市の里山バージョンみたいなものに落とし込んで整理することも一案かと考える。前期実行計画の期間では色々な試みをやってきたが、それぞれの試みが次のステップに上がっていくようなきっかけにもなり、課題といった足りてないところも見えてくると思うので、１つの大きいポンチ絵の中に落とし込んでみることも作業としてあってよいと思う。 企業との関わりについても、ビジネス性の視点でどう考えるかも必要である。先ほど非日常という言葉も出ていたが、私も研究の関係で色々な所を回っていると、社員の福利厚生、気分転換として積極的に外部環境と接点を持つような話を聞く。社員の働く意欲に還元していくという意味では結果的にビジネスへ繋がっていくところもあるだろうと思う。そういう視点から事業者の皆さんにも投げかけていく等、関わり方のルートはかなり多角的に考えていけるのではないか。 もう１つは、先ほど●●委員の話にもあったように、前期実行計画では町田市有地をベースに色々な動きをつくってみることに力点が置かれていた。しかし町田市の里山は個人で所有されている里山もかなり大きいだろうと思われる。民有地において公益性の話は介入が難しいが、ナラ枯れ等の山林で発生している問題もある。町田市有地から民有地への取り組みの橋渡しみたいなことも御旗を掲げるとすると、長期的な話になるが視野に入れて後期実行計画でも議論を始めていく必要があるのではないか。 各委員からいただいた今年度の進捗に対するご意見を通じて次のステージとしてやるべきことが本日出されたと思うので、ぜひ事務局の方でも整理しながら後期実行計画の議論に繋いでいていただければと思う。
・事務局	里山環境活用保全計画の策定からこの４年間色々なことをやってみて、それなりに手応えはあったと感じているところで、各委員の方々にもそういう感覚でいていただけたことは、とてもありがたいと感じている。 後期実行計画では前期実行計画の４年間で得た知見をどう活かしていくかが、取り組みの深度化、スピード化に繋がっていくだろうと考えている。それには事業者にどうすれば本気になって参加してもらえるかがとても大きなポイントだと思っている。収益性だけでは限界があるし、そもそも収益性があるなら既に事業者も参入していると思うので、賛同いただくためにも東京の中の町田にある里山の公益性みたいなところについてもっと明確に伝えていかなくてはいけない。事業者の関わり方については、お金の面の関わり方もあるかもしれないし、人的な関わり方やノウハウの提供など、色々な関わり方があると思う。それを引き出せるよう、こちらがしっかりとメッセージを出していく必要性がある。 ●●委員からお話があったとおり、市内の里山については市有地より民有地の山林の方が圧倒的にボリュームがある。そこも含めて里山は考えなくてはいけない。町田市は色々な経緯があって約５８haの山林を持っている。手付かずの山林もたくさんあるので、そういった場所については前期実行計画と同じように活用の実験場として使っていき、そこでの成功事例を他の民有地へ横展開していくかたちがよいかなと思っている。具体

	例を挙げると、小野路宿通りの裏山に町田市の土地と民有地が入り組んでいる場所があるが、市有地で団体と協定を結び活動し、山林内の整備が進んでいきだんだん綺麗な場所になってきた。そうすると隣の民地の地権者が「うちもやってくれないか」みたいな話をしてきて、じゃあそこもやりましょうとなり、活動範囲が広がったことがある。そのため、後期実行計画についても前期実行計画を踏襲しながらやっていきたい。町田市版の里山における森林経営管理計画のような視点で、財としての活用だけではなく空間としての活用も含めたいわゆる森林サービス業や町田市の里山の経営モデルみたいなものの目線も持って、後期実行計画の検討もしなくてはいけないと考えている。 　引き続き、各委員の皆様とは色々ご相談させていただきながらより実のある後期実行計画を作っていきたい。
６．閉会	